

浜松市立鏡山小学校 活動報告

(1) 活動内容

○ 第5学年・Lesson 7 What's this? 3/4時間

○ この単元では、ある物について積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとするのが目標として挙げられるが、クイズを通して表現に慣れ親しむというところに、この単元のおもしろさがある。テキストには、シルエットクイズ、漢字クイズ、スリーヒントクイズ、パズルクイズなどが例示されているが、児童の興味をさらに引き出せるように、例示されているクイズを補充したり自作でクイズを作成したりした。

(1) 導入

・言い慣れるためのチャンツを行う (What's this?)。

(2) 活動

○クイズ大会を行う。

<拡大図クイズ>

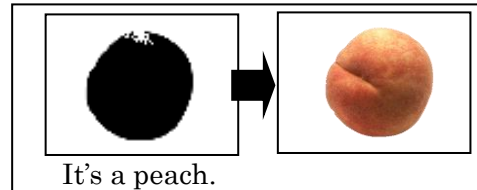
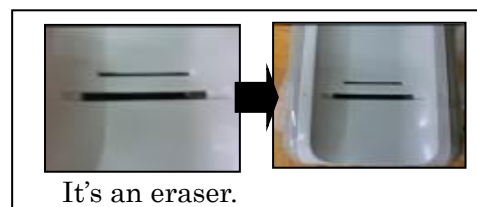
・あるものを拡大して提示し、それが何かを推測して当てさせる。

<シルエットクイズ>

・あるもののシルエットを提示し、それが何か推測して当てさせる。

*工夫したところ

意欲が高まるように、ヒントの数に応じて点数化した。また、ICTを活用した視覚情報に加え英語のヒントも与えた。



<中国語クイズ>

・中国語で表された漢字の意味を当てる。

*工夫したところ

中国語にしたことで、漢字を見ただけではすぐにわからないようにした。英語だけでなくジェスチャーや絵で表すことで多様な表現でヒントを出した。

「What does 飯店 mean?」「The answer, it's a hotel」

例 黄油→バター 手紙→トイレットペーパー 礼物→プレゼント

<だまし絵クイズ>

・いろいろなだまし絵を提示し当てる。

*工夫したところ

「What's this?」という質問以外に、「What animal can you see?」、

「Which is longer?」など様々な質問をした。



(2) 成果・課題

○ クイズを補充したり自作したりすることで、子どもたちの意欲が高まり、進んで表現に慣れることができた。

△ 児童数が少ないため児童相互で問題やヒントを出し合いが難しく、教師主導になってしまった。少人数だとバリエーションが少なく、広がりにくいのが課題である。

